

【校章】



百花繚乱

一人一人の花を咲かせよう！

校訓

自主

創造

友愛



世知原中HP



学校教育目標

「ふるさとを愛し 未来を切り拓く 生徒の育成」

佐世保市立世知原中学校 学校だより 第6号

令和6年6月3日(月) 校長 市田 恒明



「いのちかがやく強調月間」～いのちの講話～



みんな真剣に聞いてくれました。

いま皆さんは、どんなことにも使える自分の「時間」をもっています。



時間を使うことは、いのちを使うこと。

これから生きていく時間。それがいのち。

今からちょうど 20 年前、佐世保市内で児童の命が失われるという悲しい事件が起こりました。この事件をきっかけに「心の教育の必要性」、「コミュニケーション能力の向上」、「子どもたちの居場所づくり」の大切さが教訓として生まれ、「いのちを見つめる強調月間」が始まりました。

今年で20回目の節目を迎え、子どもたちのたくさんの笑顔があふれるとともに子どもたちが「幸せと生きがい」を感じ、さらにかがやいてほしいという願いをこめて、今年から「いのちかがやく強調月間」という名称に変更されました。

5月31日(金)、この「いのちかがやく強調月間」の一環として、校長による「いのちの講話」を行いました。今回、私からは「いのちとは何か?」「生きているってどういうことなのか?」「いのちはどこにあるのか?」を問いかけ、生徒たちに考えてもらいました。

私からは「いのちとは、みんなが持っている時間」であることを伝えました。授業を受けたり、運動したり、友達とおしゃべりしたり、時にはケンカしたり、おいしいものを食べたり、お風呂に入ったり、ぐっすり眠ったり、家族と楽しい時間を過ごしたりと、これから経験する時間、みんながいろいろなことに取り組んでいく時間こそ「いのち」なのです。

最後のまとめとして、以下のことを話しました。

「いのち」はだれにでも平等にあります。1日1日の時間の中に、「いのち」があります。その「時間」をみんなの「いのち」として、大切にしてほしい。

「いのち」を無駄にしないということは、「時間」を無駄にしないということ。

「時間」を無駄にしないということは、「いのち」を無駄にしないということ。

もう一つ、人が生きていくうえで大事なことがあります。

それは「ころ」です。

お互いに手を差しのべあって、いっしょに生きていくこと。「ころ」を育てるとは、そういうことです。自分以外のことのためにも、ぜひ自分の時間を使ってください。

世の中に完璧な人間はいません。

だからこそ、お互いに認め合い、励ましあい、助けあい、

支えあうことが、「いのち」を大切にしていこうということです。

※別紙として、「いのちを見つめる日を迎えるにあたって」の教育長の所感も配付していますのでご覧ください。

5/31「生徒総会」を開催

「生徒総会とは？」（議案書から抜粋）

- ・生徒総会とは、生徒会の最高議決機関である。
- ・生徒総会とは、生徒としてこの1年をどう活動していくか、目標や行動を決定し、確認する場である。
- ・生徒総会は学校の伝統を創り上げ、下級生に伝えていく場である。



5月31日の午後、いのちの講話に続き、生徒総会を開催しました。本年度の生徒会年間活動計画の確認、令和5年度の生徒会決算、令和6年度の生徒総会予算の議決、そして「学習三力条（準備・授業態度・挨拶）」、「学校メディア宣言『個人情報を守り、使用時間ややるべきことの優先順位を考えよう』」も議決されました。

他には、学校をより良くするために「クラス対抗のレクリエーションをしてはどうか。」などの意見や校則についての要望などが出されました。

生徒会は、生徒たち自身が学校をより良くしていくための自治組織であり、生徒総会を通して民主主義の在り方について学ぶ貴重な機会です。生徒の皆さん、自分たちで決めたことをしっかり守り、世知原中学校をさらにより良いものにしていくことを期待しています。

自学提出100%!

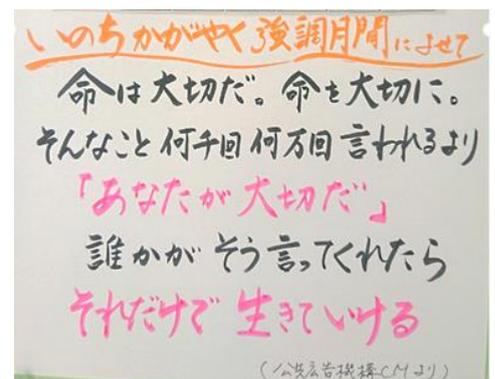
5月31日（金）、全学年の自学提出率が100%を達成していました。生徒の皆さんのやる気をととても嬉しく思います。今後、自主学習の内容をさらに充実し、毎日提出できるように習慣化してくれることを期待しています。



オアシスルームより

オアシスルームを担当していただいている心の教室相談員の先生が、「いのちかがやく強調月間」に寄せて、メッセージを掲示していただいていたので紹介いたします。

ご家庭でも、「あなたが大切だ!」という言葉かけをぜひお願いいたします。「家族ってあったかいなあ。」と感じさせることが「心のエネルギー」を育む最高の手段です。



世知原の豊かな自然～ハヤ?～

山口神社横の河川公園を流れる川（北川内川）を眺めながら、魚はいないのかなあと思いつつ見ていると、日光でできた影のおかげで見つけることができました。川底と同じ色であり、人影を感じて逃げていくので、なかなか見つけるのが難しいものです。教頭先生によれば、先日、釣りをされている方を見かけたとのことでした。



「いのちを見つめる日」を迎えるにあたって

今年、佐世保市は20回目の「いのちを見つめる日」を迎えます。

平成16年6月1日の事件で被害に遭われた御手洗怜美さんのご冥福を謹んでお祈りいたしますとともに、癒えることのない深い悲しみを抱えておられるご家族及び関係者の皆様に謹んで哀悼の意を表します。

この20年間、「いのちはかけがえのないものである」と伝える使命を忘れたことはありません。佐世保市にとって「いのちを見つめる日」は、子どもたちのいのちを守り、輝かせるという決意を新たにする日です。

これまで私たちは、「いのちは一人に一つだけの何物にも代えられないものであること」「一人一人がかけがえのない大切な存在であること」を、子どもたちの心に繰り返し訴えかけながら心の教育の充実を図ってきました。そして、成長の過程にある子どもたちにそのことが伝わっているのか、自らのよさに気づくことができずに苦しんでいないかと、子どもたちの姿を見つめ、心の奥に秘められた思いを理解する努力を、今もなお重ね続けています。

子どもたちが多様な人々と関わる中で自分のよさを発揮することは、自分自身を認め、自己肯定感や自己有用感を実感できる瞬間です。

子どもの瞳が輝くとき、その子のいのちも輝きます。いのちの輝きを目の当たりにしたとき、人の心は大きく揺さぶられます。これは、人と人との関わりの中でしか得ることのできない、かけがえのない経験です。

各学校におかれては、子どもが主体的に活動したり、子ども同士だけでなく、地域の方々も含め様々な人々と関わり合う活動をしたりする中で、子どもたちの胸の内に、幸せや生きがいと共に、未来を切り開く力が育まれることを期待しています。

佐世保市では、今後も、人のもつ温かな眼差しに見守られ、安心して自分の思いを表現できる学校・家庭・地域づくりを、関係機関や行政も共に手を取り合いながら推進し、「子ども一人一人のいのちが輝き、子どもの笑顔が花開く」学校づくりに尽力してまいります。

「いのちを見つめる日」を迎えるにあたり、教育長としての所感といたします。

令和6年6月1日

佐世保市教育委員会 教育長 陣内康昭